



2012年(平成24年)度事業計画

学校法人 工学院大学

目 次

1. トップメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 中期計画「コンパス2017」の目標・重点施策・・・・・・・・ 2～4
3. 2012年度事業計画骨子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
4. 重点施策・主要施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6～8

「コンパス 2017」の命名について

Compass toward 2017

15 世紀の末頃、航海の道具としての羅針盤(コンパス)が発達して、星の見えない曇天の夜でも航海が可能となり、目的地に早く正確につくことが出来るようになりました。これにより大航海時代が始まり世界は大きく発展しました。

大学を取り巻く環境も少子高齢化、グローバル化の進展など先の見えない曇天の夜の様な状況の中、150 周年に向け「vision150」で掲げた理想と目標を着実に達成するために 6 年ごとに4回組む中期計画は日頃の学校運営や学校経営の羅針盤としての役割を果たすこととなります。

今年 125 周年を迎え 150 周年に向け新たに一步を踏み出す第一回目の中期計画を(2012 年～2017 年)「コンパス 2017」と命名したのはこのような理由からです。

学園の学生、生徒、教職員全員でコンパス 2017 に掲げた施策を確実に遂行して目標を達成することにより、さらに素晴らしい誇れる工学院大学・附属中高へと発展させて行きましょう。

1. トップメッセージ



理事長 高田 貢

先例なき少子高齢化、グローバル化時代を迎え、我が国の社会環境は大きく変貌しようとしています。そのような時代の変化の中で、学校経営に対する構造改革が大きくクローズアップされるようになってきました。

このような環境下で今年度は、学園が栄えある創立125周年を迎えます。この歴史の節目に当たり、現在進めております125周年記念事業を学園構成員が一丸となって取り組み成功させねばなりません。そして、来る記念日には教職員の皆様とともに心に残る有意義なメモリアルイベントを開催し、先達から引き継いできた歴史的有形無形の資産を今後さらに積み上げ、次世代へとつないでいくことが求められています。

学園が創立125周年を迎えるのを機に、2010年より討議が進めてきました「ビジョン150プロジェクト」の結果を踏まえ、懸案でありました新中期計画（6カ年計画）「コンパス2017」が策定されました。今年度の「2012年度事業計画および予算」は、この中期計画をもとに作成され、四月より実行しております。

また、新中期計画「コンパス2017 ～ Compass toward 2017 ～」は、厳しさが増す教育環境の変化のなかで本学園が次世代の150周年に向け、学園の理念とミッションを踏まえ、計画を着実に実行に移すための指針となります。その中期計画も各年度の事業計画と予算の実績などを踏まえ、ローリングプラン方式により見直しを行い、フレキシブルな運用をいたします。そして六年毎にその時代に相応しい戦略のもとに新中期計画を策定してまいります。

今年度は「コンパス 2017」の初年度のスタートの年でもあります。今年度の事業計画の重点施策を計画にもとづき実行してまいります。特に「マネジメント体制の再構築」を目的に学園の組織変更を実施し、責任と権限の確立を図ります。そして教職員が各自の任務をよく理解し構造改革に取り組んでいただき、本学園の125年の歴史と伝統の上に、学園のブランド力の向上を図ります。そのことにより学園が受験生や社会から評価され、且つ学生や教職員が誇りを持って学べ、働ける学園づくりに邁進してまいります。

理事長 高田 貢

2. コンパス2017（新中期計画）の目標・重点施策

本学園は、これまでに中期計画ジャンプ21(1996-2000)・スタート21(2001-2005)・ダッシュ21(2006-2010)を策定し、着実に実行した。

そして、2012年度スタートする新中期計画の名称は、「コンパス2017 ～ Compass toward 2017 ～」である。これは、学園創立125周年を迎える2012年は、150周年に向けた第一歩を踏み出す年でもあり、未来の学園の方向性を示す羅針盤であることを表現している。

2.1 学園全体 中期計画



企画担当常務理事
木村 雄二

ビジョン150に掲げた目標を達成するための第1歩である新中期計画「コンパス2017」における下記の種々の学園の課題に果敢に取り組み、着実に達成したいと考えます。すなわち、学園のあるべき姿の明確化とこれに向かって力を結集するためには、構成員である教員・職員の協働が不可欠であり、さらに学生・生徒諸君を巻き込んだうねりと呼べる雰囲気醸成しなければなりません。このためには、適切な評価に基づく教職員の資質向上が必要とされ、これを踏まえたマネジメント体制の再構築を行い、強固でスピーディーなマネジメントの実現を目指します。

学園全体

I. マネジメント体制の再構築（強固でスピーディーなマネジメントの実現）

- ・責任と権限の明確化（組織改革 等）
- ・経営インフラの改善（ITインフラの改革 等）
- ・目標管理制度の実施
- ・大学、中高、学園のガバナンス強化
- ・戦略的経営の推進

II. 適切な評価に基づく教職員の資質向上

- ・人事政策（採用・育成・研修・評価・ローテーション）の確立
- ・学内外における積極的な人事交流・研修

III. 学園のドメイン拡大と社会連携の強化

- ・社会連携戦略を踏まえた他機関との連携の実施
- ・卒業生ネットワークの強化

IV. 国際化対応の推進

- ・国際化コンセプトと施策確立
- ・環境の整備

2.2 大学 中期計画



大学 学長
水野 明哲

本学は、毎年 1,000 人以上の学部学生、そして 200 人以上の大学院修士課程修了者を社会に送り出しています。つまり、自ら行動する感性豊かな学生を育成し、社会へ送り出すことが大きな使命です。さらに研究活動では、教員や大学院生を中心に国際的レベルでの研究成果があがり、今後さらなる活性化を目指します。一方、少子化や技術動向の変化など、大学を取り巻く環境は厳しさを増しています。そのため、大学では中期計画を鋭意議論し、目標と重点施策として下記の 6 項目を定めました。社会のニーズを先取りし、これらの目標を実現することにより大学の力強い発展を目指します。

大学

I. 社会のニーズに応じた学部・コースの改革と新設

- ・ 外部連携，国際化，複数専門をにらんだ新学部の設置
- ・ 学位取得または教員免許取得を前提とした社会人対象の新コースの設置
- ・ 既存学部・学科の改革

II. 大学院の強化と研究環境の整備

- ・ 高度専門的職業人を育成する大学院教育の改革（大学院進学率の向上）
- ・ 創造的研究活動を支える環境の整備

III. 学生が自らの未来を描く教育プログラムの改革

- ・ キャリアを描き実現するための戦略的教育の実施
- ・ 教育の質保証をめざした教学改革

IV. 学生の活気あふれる教育・研究環境の実現

- ・ 多様な学生で構成されるキャンパスの構築（女子学生・留学生の積極的獲得）
- ・ 課外活動の活性化

V. 新たな教育・研究体制の構築（教育・研究マネジメント体制の強化）

- ・ 科学技術の動向を把握し，戦略的研究ドメインの設定
- ・ 教育・研究成果に対する評価とフィードバックシステムの構築

VI. マネジメント体制の再構築（大学のガバナンス強化）

- ・ 学長をトップとした意志決定システムの再構築
- ・ 中期計画，事業計画に沿った事業の実施
- ・ マネジメント環境の整備

2.3 中高 中期計画



附属中高 校長
宮下 正昭

近年の私立中高を取り巻く環境は、少子化に加え公立高校の授業料無償化、中高一貫校の増設など、かつてないほど厳しく、公立私立を問わず再編や淘汰の時代を迎えています。一方、2012年は学園創立125周年、附属高等学校創立65周年の記念すべき年であり、未来の工学院を見据え、150周年へつなぐ重要な年として位置づけられます。これらのことを念頭に置き、150周年に向けた新中期計画「コンパス2017」を1年がかりで策定しました。本年度の事業計画・重点施策として「中高大一貫教育体制の構築」、「学力の向上と学習環境の整備」、「教育力の向上と教育評価制度の確立」に鋭意取り組み、学園ならびに附属中高の確実な向上を目指します。

中高

I. 中高大一貫教育体制の構築

- ・中高大院一貫教育プログラムの実践
- ・工学院大学の単位先取り制度の導入
- ・高大6年間の卒業制度の構築
- ・キャリア教育の推進

II. 学力の向上と学習環境の整備

- ・大学生によるチューター制度の導入
- ・家庭学習の充実

III. 教育力の向上と教育評価制度の確立

- ・教科目標の設定と成果の公表
- ・教育評価体制の確立
- ・教員の他校での研修
- ・中高大教職員の人事交流の構築
- ・新任教員の企業研修とSSTへの参加の義務化

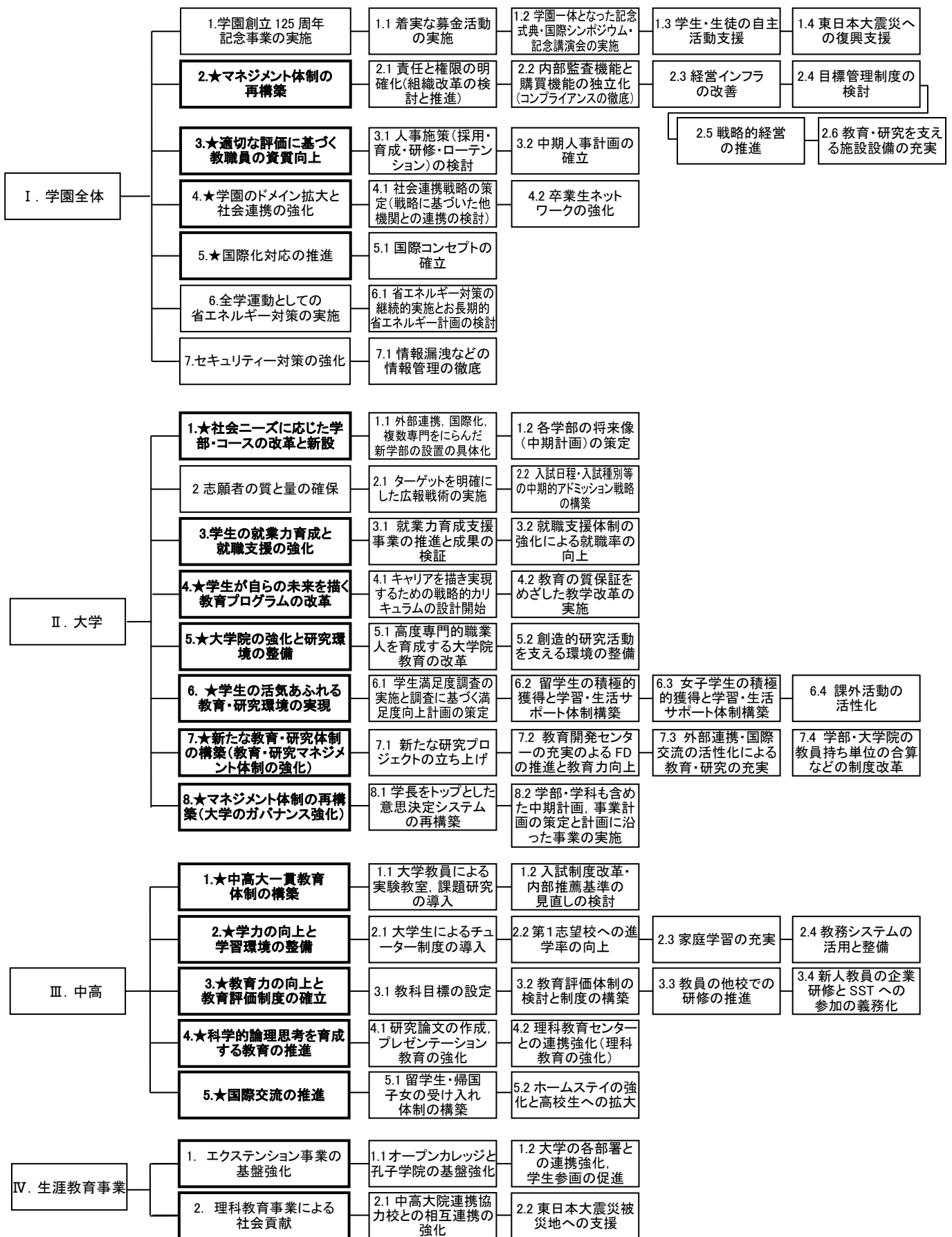
IV. 科学的論理思考を育成する教育の推進

- ・工学院オリジナル教育の策定
- ・理科教育センターとの連携強化（理科教育の強化）
- ・SPPの実現とSSHへの基盤づくり

V. 国際交流の推進

- ・留学生・帰国子女の積極的な受け入れ
- ・ホームステイの推進

3. 2012年度事業計画骨子



4. 重点施策・主要施策 (★は中期計画重点施策)

2012年度の事業計画は、中期計画の重点施策と単年度に確実に実行する主要施策から構成されている。

I. 学園全体

1. 学園創立125周年記念事業の実施

- 1.1 着実な募金活動の実施
- 1.2 学園一体となった記念式典，国際シンポジウム，記念講演会の実施
- 1.3 学生・生徒の自主活動支援（学園夢企画の成果報告会，八王子キャンパス環境整備）
- 1.4 東日本大震災への復興支援

2. ★マネジメント体制の再構築（強固でスピーディーなマネジメントの実現）

- 2.1 責任と権限の明確化（組織改革の検討と推進）
- 2.2 内部監査機能と購買機能の独立化（コンプライアンスの徹底）
- 2.3 経営インフラの改善
- 2.4 目標管理制度の検討
- 2.5 戦略的経営の推進
- 2.6 教育・研究を支える施設設備の充実

3. ★適切な評価に基づく教職員の資質向上

- 3.1 人事施策（採用・育成・研修・評価・ローテーション）の検討
- 3.2 中期人事計画の確立

4. ★学園のドメイン拡大と社会連携の強化

- 4.1 社会連携戦略の策定（戦略に基づいた他機関との連携の検討）
- 4.2 卒業生ネットワークの強化

5. ★国際化対応の推進

- 5.1 国際化コンセプトの確立

6. 全学運動として省エネルギー対策の実施

- 6.1 省エネルギー対策の継続的实施と長期的省エネルギー計画（特高変圧器・自家発電・自然エネルギー・電力の平準化等）の検討

7. セキュリティ対策の強化

- 7.1 情報漏洩などの情報管理の徹底

Ⅱ. 大学

1. ★社会のニーズに応じた学部・コースの改革と新設

- 1.1 外部連携，国際化，複数専門をにらんだ新学部の設置案の具体化
- 1.2 各学部の将来像（中期計画）の策定

2. 志願者の質と量の確保

- 2.1 ターゲットを明確にした広報戦術の実施
- 2.2 入試日程・入試種別等の中期的アドミッション戦略の構築

3. 学生の就業力育成と就職支援の強化

- 3.1 就業力育成支援事業の推進と成果の検証
- 3.2 就職支援体制の強化による就職率の向上

4. ★学生が自らの未来を描く教育プログラムの改革

- 4.1 キャリアを描き実現するための戦略的カリキュラムの設計開始
- 4.2 教育の質保証をめざした教学改革の実施

5. ★大学院の強化と研究環境の整備

- 5.1 高度専門的職業人を育成する大学院教育の改革（大学院進学率の向上）
- 5.2 創造的研究活動を支える環境の整備

6. ★学生の活気あふれる教育・研究環境の実現

- 6.1 学生満足度調査の実施と調査に基づく満足度向上計画の策定
- 6.2 留学生の積極的獲得と学習・生活サポート体制構築
- 6.3 女子学生の積極的獲得と学習・生活サポート体制構築
- 6.4 課外活動の活性化

7. ★新たな教育・研究体制の構築（教育・研究マネジメント体制の強化）

- 7.1 新たな研究プロジェクトの立ち上げ
- 7.2 教育開発センターの充実によるFDの推進と教育力向上
- 7.3 外部連携・国際交流の活性化による教育・研究の充実
- 7.4 学部・大学院の教員持ち単位の合算などの制度改革

8. ★マネジメント体制の再構築（大学のガバナンス強化）

- 8.1 学長をトップとした意志決定システムの再構築（組織・委員会の見直し）
- 8.2 学部・学科も含めた中期計画，事業計画の策定と計画に沿った事業の実施

Ⅲ. 中高

1. ★中高大一貫教育体制の構築

- 1.1 大学教員による実験教室，課題研究（必修・授業との連動）の導入
- 1.2 入試制度改革・内部推薦基準の見直しの検討

2. ★学力の向上と学習環境の整備

- 2.1 大学生によるチューター制度の導入
- 2.2 第1志望校への進学率の向上
- 2.2 家庭学習の充実
- 2.4 教務システムの活用と整備

3. ★教育力の向上と教育評価制度の確立

- 3.1 教科目標の設定
- 3.2 教育評価体制の検討と制度の構築
- 3.3 教員の他校での研修の推進
- 3.4 新人教員の企業研修とSSTへの参加の義務化

4. ★科学的論理思考を育成する教育の推進

- 4.1 研究論文の作成，プレゼンテーション教育の強化
- 4.2 理科教育センターとの連携強化（理科教育の強化）

5. ★国際交流の推進

- 5.1 留学生・帰国子女の受け入れ体制の構築
- 5.2 ホームステイの強化と高校生への拡大

Ⅳ. 生涯教育事業

1. エクステンション事業の基盤強化

- 1.1 オープンカレッジと孔子学院の基盤強化（分野ごとの柱となる講座の定着化）
- 1.2 大学の各部署との連携強化，学生参画の促進

2. 理科教育事業による社会貢献

- 2.1 中高大院連携協力校との相互連携の強化（新しい教育プログラムの開発）
- 2.2 東日本大震災被災地への支援（出張理科教室開催 等の検討）

